



愛媛県 肱川
肱川かわびらき実行委員会
杉井 太一さん



高知県 四万十川
(公財)四万十川財団
事務局長 神田 修さん



高知県 仁淀川
(一社)仁淀ブルー観光協議会
西岡 由岐さん



徳島県 那賀川
那賀川アフターフォーラム
会長 中村 貴志さん



徳島県 吉野川
NPO法人 アクア・チッタ
理事 岡部 吐夢さん



徳島県 吉野川
NPO法人 美馬体験交流の会
田中 義美さん



徳島県 吉野川
NPO法人 新町川を守る会
長谷川 晋理さん

イベント「仁淀ブルー体験博」を紹介。
徳島県からは、那賀町木頭北川の源流周辺における源流碑の建立や、源流コンサートなど息の長い活動を続ける那賀川アフターフォーラム、古びた倉庫街となっていた「万代中央ふ頭」を賑わいのある魅力的な空間に生まれ変わらせたNPO法人 アクア・チッタ、中流域の美馬市で「美馬市水辺の楽校春祭り」を開催するNPO法人 美馬体験交流の会から、それぞれ発表がありました。「朝から300人で花植えてきました」と話すのはNPO法人 新町川を守る会。「川から

広げるまちづくり」を目指して、実践あるのみです。

熱のこもった発表の後は三大河川による意見交換です。「オール利根川」として、皆さんの事例に学びながら上下流の交流を本格的に進めたい」とNPO法人 利根川流域交流会・福成孝三会長。NPO法人 筑後川流域連携倶楽部の吉田貴衣理事は「河川環境や賑わいの様子が三河川とも全然違う。新鮮に感じ、刺激を受けました」と目を輝かせ、吉野川交流推進会議・福永義和会長が「四国を代表する河川の方に集まっていただき、女性や若い方の活躍で、三大河川交流に弾みがついた」と感謝の言葉を贈りました。最後は中村英雄副会長が「どの川も上流の恩恵を受けている。源流に思いを寄せて、流域全体のことを考えて活動していこう!」と呼びかけました。新たな川仲間と知り合い、語り合い、大きな広がりを感じることでできたシンポジウムでした。



ポスターセッションでは、会場のあちこちで話の輪が咲きました。



吉野川交流推進会議の活動をパネルでPR



全国から約100名の川仲間が集結



「徳島の川に親しむダンスの会」の小中学生のメンバーも大活躍です。

川仲間と吉野川の文化にふれるツアーへ

三大河川シンポジウムの翌日は、吉野川の文化を巡る現地案内ツアーを開催しました。17人の参加者は、まずは「ひょうたん島水上タクシー」で、新町川～吉野川～榎瀬江湖川～今切川を經由して北島町水辺交流プラザへ。いくつもの橋、樋門や閘門を抜け、水辺の風景を楽しむ約1時間のクルーズの後は、藍住町歴史館 藍の館で藍染体験に挑戦しました。「阿波藍の色の奥深さは長年の歴史と技術の積み重ね。クオリティに徳島のプライドを感じます」と語ってくれたのは、筑後川からの参加者のひとり・



世界で一枚の藍染め作品が完成!

古賀 円(まどか)さん。古賀さんは実は久留米餅のデザイナーです。古くから繋がりが深い久留米餅と阿波藍——川を通じた文化交流もこれから一層深めていきたいですね。午後は、「第九」アジア初演の地・鳴門市大麻町へ。鳴門市ドイツ館で板東俘虜収容所で過ごしたドイツ兵達の活動や地域の人々との交流の様子を見学しました。川仲間とたくさん語り、流域の文化を満喫した1日のツアーでした。



鳴門市ドイツ館の第九シアター



吉野川をクルージング



今切川河口堰の閘門